

科目名	基礎演技Ⅱ							年度	2024
英語科目名	Basic ActingⅡ							学期	後期
学科・学年	声優・演劇科 1 年次	必／選	必	時間数	70	単位数	2	種別※	実習・実技
担当教員	高橋美沙、いわいのふ健		教員の実務経験		1 5 年	実務経験の職種		俳優	
【科目の目的】									
基礎演技Ⅰから引き続き「肉体トレーニング」「呼吸」「発声」を繰り返し、基礎体力の上昇や基礎能力を向上させ、発表に向けて備える。様々な演技の表現方法を学び、自ら考察を重ね、共演している学生間のコミュニケーションを確立させる。最終回の成果発表を通して、各自の今後の課題を見つけ、役者としての一步を踏み出すための足掛かりにする。									
【科目の概要】									
個々の資質を伸ばしながら、呼吸法・発声法・発音訓練、それに伴う身体訓練などを含む演技の基礎を学ぶ。									
【到達目標】									
演劇表現を行う者つまり役者の基礎力を高めることを最重要視する。言葉で「伝える」ことの難しさを再認識し、基礎力をもって「わかりやすく伝える」ことを意識し、実践できるようになること。感情を開放し、コントロールしながら声と身体を使って、表現ができるようになること。基礎演技Ⅰで理解、達成したことを踏まえながら具体的な目標として「成果発表」をする。									
【授業の注意点】									
学生間・教員と学生のコミュニケーション・協働性を重視する。役者としての常識マナーを身につけるために原則として遅刻や欠席、見学は認めない。集中力を欠かさず、向上心と積極性を持って授業に参加することを求める。グループワークでの発表が多いので、協調性を持ち、授業に参加できるようにコミュニケーションをとり、出された課題は各自クリアするために日々研究を重ね、授業に臨むこと。授業時数4分の3以上出席が必須。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル5 優れている	レベル4 よい	レベル3 ふつう	レベル2 あと少し	レベル1 要努力				
到達目標 A	腹式呼吸が完璧にできており、長い台詞・短い台詞を正しい発声法とブレスポイントを駆使することができる。	概ね腹式呼吸ができているが、息の量が少なくなった時に咽頭への力みが生じる発声をしている。	腹式呼吸を理論的に理解しているが、訓練不足により結果が出ていない。	腹式呼吸を理論的に理解できず、訓練方法の意図も理解できていない。	腹式呼吸やその訓練の重要性を理解せず、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標 B	初見の課題において、母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を的確に区別し、台詞として表現することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化を自力で区別することができ、実践することができる。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができるが、自力で区別することができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解することができず、区別していることができない。	母音・子音・鼻濁音・母音の無声化の理論を理解しようとせず、授業内において出席意欲を感じられない。				
到達目標 C	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品について語ることができる。	戯曲の内容・登場人物・作者の意図を自分なりに解釈し、作品のテーマを理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解している。	戯曲の内容・登場人物の相関を理解しようとする意欲は見える。	戯曲を読解しようとする意欲がない。				
到達目標 D	自分の役割を理解し、自己都合を一切感じさせず他者の感情に訴えかける表現を行うことができる。	自分の役を理解し、他者の感情を考慮しながら“役としての”コミュニケーションを図ることができる	自分の役を理解し、他者の感情を考慮し用としているが“役としての”コミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解できず、他者と目を合わせてコミュニケーションを図ることができない。	自分の役を理解しようとせず、他者とコミュニケーションを図ろうとしない。				
到達目標 E	遅刻・欠席をしない	遅刻はあるが欠席は少ない	遅刻・欠席が少ない	遅刻・欠席が多い	遅刻・欠席が非常に多い				
【教科書】									
戯曲、朗読、発声等の必要テキストの配布□									
【参考資料】									
〃毎回授業にて資料配布を行う□□									
【成績の評価方法・評価基準】									
成果発表	50%	授業内に行われる発表にて評価する							
平常点	40%	遅刻・欠席、授業への取り組みで評価する							
課題点	10%	課題への取り組みで評価する							
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		基礎演技Ⅱ			年度	2024
英語表記		Basic Acting Ⅱ			学期	後期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容		到達目標＝修得するスキル	
1	ガイダンス	授業内容確認		イントロダクション	授業に臨むにあたっての心構え	
				学習目的の理解	授業理解	
				達成目標	授業概念の理解	
2	身体づくり	役者に必要な身体をつくる		意義	身体づくりの重要性を理解する	
				トレーニング	様々なトレーニング方法を身につける	
				自己解放	余計な緊張を解く	
3	台本	作品を理解する		読み合わせ	大きな声で読むことができる	
				読み合わせ	役のキャラクターをつかむ	
				インプロ	必要な感覚を理解する	
4	台本	作品を理解する		読み合わせ	あらすじを理解する	
				読み合わせ	シーンを想像する①	
				インプロ	必要な感覚を理解する	
5	グループワーク	グループで本読みを行う		読み合わせ	相手との距離感をつかむ	
				読み合わせ	動きを想像する	
				インプロ	必要な感覚を理解する	
6	グループワーク	グループで本読みを行う		読み合わせ	衣装・道具を想像する	
				読み合わせ	台詞を覚える	
				インプロ	必要な感覚を理解する	
7	粗立ち稽古	舞台空間をつかむ		粗立ち	空間を想像する	
				粗立ち	役の立ち位置をつかむ	
				呼吸	役者としての呼吸を学ぶ	
8	立ち稽古	舞台上での存在の仕方を研究する		表現	表現方法を増やす	
				舞台用語	舞台用語を覚える	
				舞台表現	舞台上での存在の仕方	
9	立ち稽古	舞台上での存在の仕方を研究する		役作り	役の姿勢・立ち振る舞いをつかむ	
				台詞の掛け合い	相手の台詞を聞く	
				舞台表現	舞台上での存在の仕方	
10	返し稽古	場面ごとに細かく稽古		表現	様々なアイディアを出す	
				台本から想起	場面を想起し演ずる	
				舞台表現	舞台上での存在の仕方	
11	返し稽古	場面ごとに細かく稽古		表現	様々なアイディアを出す	
				台本から想起	場面を想起し演ずる	
				舞台表現	舞台上での存在の仕方	
12	通し稽古	全体的な流れをつかむ		舞台芸術	全体的な流れをつかむ	
				反芻	改善点を見つける	
				舞台表現	舞台上での存在の仕方	
13	抜き稽古	各場面に磨きをかける		ブラッシュアップ	演技に磨きをかける	
				台本理解	台本を理解し表現に繋げる	
				舞台表現	舞台上での存在の仕方	
14	ゲネプロ	本番の感覚をつかむ		間と距離感	表現における間と距離感	
				確認	本番に向けて、最終確認する	
				舞台表現	舞台上での存在の仕方	
15	本番	舞台本番を体感する		観客	観客の前でのパフォーマンスを楽しむ	
				感覚	本番の高揚感・緊張感を感じる	
				課題	今後の課題を見つける	

評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他

自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった

備考 等